



環境情報学部卒業後に結婚。ランドスケーププランニングを学ぶためドイツへの留学を経て、南阿蘇村に移住。今年三男が産まれた。

農業の実践者として阿蘇に暮らし 魅力あふれる農村の可能性を発信

からは、専業農家である叔父のもとで無農薬栽培の「おあしす米」、減農薬栽培のキュウリ、草原に放牧したあか牛を育てている。また農閑期

物に頼り続けると、そうした大事な役割を持つ農業や農村が廃れてしまうという危機感を抱いているのだ。とはいえ、眉間にしわを寄せて農業の大切さを訴えても伝わらない。いまは田んぼでのバレーボール大会、「農とアート」を結びつけた企画、阿蘇の豊富な草を資源とした発電事業などに取り組みながら、農村でしかできない楽しく豊かな暮らしを、まずは自分たちで満喫している。

SFCで出会った大津耕太さんと愛梨さん（旧姓・吉田）は、慶應義塾卒業後に進学したドイツの大学院で農村の景観計画を学ぼうと、美しい田園風景や里山を守るには農業が営まれ続けなければならないことに気づいた。そこで二人は農業の実践者として農村に暮らし、その可能性を探究する道を選んだ。

2003年、耕太さんの故郷、南阿蘇村（当時・白水村）に移住して

には、農業や環境に関する翻訳や通訳もこなしている。

二人は、農業を「食糧を生産するだけの仕事」とは考えていなかった。「日本全国の水田の保水力は、国内すべてのダムの3・4倍。また、農村の豊かな緑は二酸化炭素を吸収し、美しい田園風景は癒しや教育の空間として、私たちにかけがえのないものを与えてくれます」
価格の安さだけを理由に輸入農産

「O2ファーム」

O2 Farm Web <http://www.aso.ne.jp/reisi/>

「農業を営むには、ものすごい創意工夫と経営感覚が必要です。いまこそSFCに戻って、勉強し直したいと思います」

大津耕太・愛梨
平成10年 環境情報学部卒

